

平成 24 年度
お茶の水女子大学 ECCELL 社会人プログラムのご案内
(生活科学部 特別設置科目)

前学期・後学期いずれも、毎週火・水・木・金曜の 11・12 限 (18:20~19:50) に 1 科目
 ずつ、集中授業で 2 科目、合計 6 科目が開講されます。

【前学期】

火曜日 : コミュニティ保育資源の活用
 水曜日 : 乳幼児発達障害論
 木曜日 : 現代保育課題研究
 金曜日 : 子ども理解と保育の探求
 集中講義 : 乳幼児保育マネジメント
 集中講義 : 現代育児論

【後学期】

火曜日 : コミュニティ保育資源の活用
 水曜日 : 乳幼児発達障害論
 木曜日 : 現代保育課題研究
 金曜日 : 子ども理解と保育の探求
 集中講義 : 乳幼児保育マネジメント
 集中講義 : 比較保育実践研究

後学期開講科目のシラバスは、追って掲載いたします。

前学期開講科目 シラバス

コミュニティ保育資源の活用 2 単位 火曜日(隔週) 18:20~21:30
 (開講日時の詳細は授業計画参照) 担当: 築地 律 (三鷹市星と森と絵本の家館長)

主題と目標

子どもは、園(幼稚園・保育園)での時間、家庭での時間、地域コミュニティでの時間を合わせた 24 時間を過ごしています。ともすると「園の中にいる子ども」「3年間(あるいは 6 年間)の園生活」に限定しがちな視点を、長い一生のうちの「子どもの時間」として見つめなおし、保育への地域資源の活用と、保育が地域にかかわっていくことの意義をみんなで考えたいと考えています。「子育てする地域文化の創造」を目指す三鷹市において、市民との協働によって運営されている「星と森と絵本の家」の活動を資料源とします。

受講条件・その注意

特になし

授業の形態

講義 討論 講読 実験 実習 実技 発表 演習 施設見学

教科書・参考図書

レジュメ配布

評価方法・評価割合

小論文(レポート)(割合:30%) 出席(割合:50%) 発表(割合:20%)

授業計画

隔週火曜 18:20~21:30 (4/24 5/8 5/22 6/5 6/19 7/8 日曜 7/10)

7/8 日曜は 10:00~16:30 星と森と絵本の家見学及び事業参加

4/24(火) 自己紹介及びワークショップ
 ワークショップのまとめと共有
 5/8(火) 「園と家庭の関係」を考察する
 「子どもと地域」について考察する
 5/22(火) 「園と地域の関係」を考察する
 「地域における保育資源」を考察する

- 6/5(火) 三鷹市の「子どもと絵本プロジェクト」検討過程
星と森と絵本の家について(1) 絵本の家ができるまで
- 6/19(火) 星と森と絵本の家について(2) 絵本の家事業の特徴と配慮
星と森と絵本の家について(3) 見学のポイント
- 7/8(日) 10:00～16:30
星と森と絵本の家について(4) 施設見学(所在地:三鷹市大沢 2-21-3)
- 7/10(火) 絵本の家について(5) 見学について意見交流
まとめ コミュニティ保育資源の活用について

学生へのメッセージ

受講生の経験の交流によって進めていきますので、「園での子ども」「家庭での子ども」「地域での子ども」に関っているバラエティ豊かな受講生が参加されることを期待しています。

乳幼児発達障害論

2単位 水曜日 18:20～19:50

担当: 榊原 洋一 (お茶の水女子大学大学院 教授)

主題と目標

人の子どもの発達は、遺伝と環境の相互作用によって決定されている。本講義では、生物学的・医学的な視点で、子どもの発達とその障害について概説する。
前学期では、特に近年社会的関心の高い発達障害(高機能自閉症、注意欠陥、多動性障害など)について詳説する。

現代保育課題研究

1単位 木曜日(隔週) 18:20～19:50

担当: 榊原 洋一 (お茶の水女子大学大学院 教授)

主題と目標

本講座は少人数の受講生が、各自の保育現場(保育園、幼稚園、子育て支援センター)などで直面するさまざまな問題や、子どもの発達、行動に関する課題を主題として研究テーマを設定し、ゼミ形式で進めてゆくものである。これまでのテーマとしては、子どもの行動や発達に関する主題(落ち着きのない子どもの保育など)、子どもの行動観察とドキュメンテーション、保育習慣(午睡など)、保育行政(夜間保育)などが挙げられる。
学習、研究結果を最後にまとめて発表するが、希望者には、日本保育学会などでの発表もサポートする。

受講条件・その注意

保育現場をもつ社会人向きであるが、学生参加も可。

授業の形態

講義 討論 購読 実験 実習 実技 発表 演習

評価方法・評価割合

出席(割合:50%) 発表(割合:50%)

授業計画(8回)

- 研究方法の概説
- 研究課題決定
- 講義(1)子どもの発達の特徴概論
- 講義(2)子どもの発達の障害概論
- 文献抄読
- 研究進捗状況発表
- 発表準備
- 成果発表会

主題と目標

どの時代のどの社会も、ひとはひとをひととして育て、生きさせてきた。保育・子育てと呼ばれる営みを抜きに人の歴史は無かったと言っても過言ではないだろう。当授業では、人間が古来子どもにどのようなまなざしを向け理解しようとしてきたかを概観しつつ、現代の日本において多彩で重厚な日々の保育を担いまた支えるユニークな人たちをお招きして直接お話をうかがう。各ゲスト講師には、1回ないし2回ずつ、時に実技などの実践も交えながら独自に授業を展開してもらい、2回目ないし3回目には、受講者からの発言（質問・意見・感想）を生かしつつ、ゲスト講師と当授業担当者との対談によるまとめを行う。受講者が授業者と共に積極的かつ多様に感じ考え発言し合うことで、自らの思考を発展させられる場となることを目指す。

受講条件・その注意

特になし

授業の形態

講義 討論 講読 実験 実習 実技 発表 演習

教科書・参考図書

必要に応じてプリント等配布します。

評価方法・評価割合

小論文（レポート）（割合：40%） 出席（割合：30%）

その他（割合：30%）授業後のコメントペーパー、質問など

授業計画

1. オリエンテーション：子どもへのまなざし
2. さまざまな保育現場と子ども理解
3. 保育者からの報告（1）- 1 人とつき合う・自分とつき合う
4. 保育者からの報告（1）- 2 からだワークショップ
5. 対話的まとめ
6. 保育を支えるモノ造りの造り手からの報告
7. 対話的まとめ
8. 子ども白書・保育白書等のデータが問うもの
9. 詩・絵本・文学等の言葉や絵が問うもの
10. 保育者からの報告（2）- 1 保育における笑い～おたよりを通して考える
11. 保育者からの報告（2）- 2 変わるもの変えてはいけないもの
12. 対話的まとめ
13. 保育研究者からの報告 子どもとわたしの素敵なカンケイ
14. 対話的まとめ
15. 総括と展望 子ども理解と保育の探求
（順番は変更になることがあります。）

学生へのメッセージ

人間に、子どもに、保育に、大まじめに惚れ込んでいる人の言葉を聴きましょう。そして、そういう姿に惚れ惚れとしたりたじろいだりしながら、人と共に在りたいと願える人に、一緒になりましょう。それは時に驚くほどに深遠で多分にアカデミックな、平和（殺すことではなく生かすこと）の知=保育の知の探求であるはずです。

主題と目標

近年、乳幼児を集団で保育するあり方が、次第に複雑化している。保育空間も時間の構成も、集団の枠組みも、時間も、保護者の保育参加の在り方も、極めて多様化してきた。現代の保育者の課題は、乳幼児の発達にかかわる教育資源(リソース)を豊かに想定し、それらを上手に日々の子どもたちの生活に取り入れる力を身につけていくことであろう。乳幼児保育マネジメントでは、子どもの成長・発達にかかわる教育資源を活用するうえの『舵取り』力の養成を目指している。わが国の乳幼児の集団保育の運営が、「管轄」からはじまって、「保育空間」と「時間」と「集団運営」そして「保育の理念」までも固定化の歴史をたどってきた歴史を振り返りつつ、質の向上を目指して先駆的な取り組みをしている園の実践に学び運営上の課題を明らかにしていく。前学期では、主として「保育環境」に焦点を当て検討していく。

授業の形態

講義 討論 講読 実験 実習 実技 発表 演習 見学

教科書・参考図書

授業で紹介する

評価方法・評価割合

小論文(レポート)(割合:50%) 出席(割合:20%) 討議(割合:30%)

授業計画**7月25日(水) 保育空間を考える際の基礎知識**

- (1) 保育施設と設備は子どもの発達と学習を支えるカギである
- (2) 保育空間はどのようにつくられてきたか?

最初の幼稚園の保育空間の構成

〔事例研究〕東京女子師範学校付属幼稚園/鹿児島幼稚園/愛珠幼稚園

明治・大正期における保育空間改革への試み

〔事例研究〕岡山県内の新しい園舎建築の動き

第二次世界大戦後の幼稚園・保育所設置基準の設定

近年における幼稚園・保育所設置基準の見直し

- ・見直しの必要の起こり
- ・見直しの8つの指標

7月26日(木) さまざまな保育空間の事例研究(国内編)

設置基準に則した園の保育空間の事例

配慮の行き届いた保育空間(保育園・子育て支援センター)の事例

保育空間のデザインと機能性との関係

7月27日(金) さまざまな保育空間の事例研究(国外編)

レッジョ・エミリア市の保育園

フランクフルト、ミュンヘン市の幼保一体施設

7月28日(土) 配慮の行き届いた園の見学**学生へのメッセージ**

子どもの発達と学習にかかわる物理的な条件について理解を深め、配慮の行き届いた保育環境作りの可能性を考えてみましょう。

現代育児論 1単位 集中講義 7月30日(月)、7月31日(火)、9月29日(土)

担当: 汐見 稔幸 (白梅学園大学 学長)

小西 行郎 (同志社大学大学院 心理学研究科 赤ちゃん学研究センター 教授)

大日向雅美 (恵泉女学園大学大学院 教授)

【小西行郎 講師】 7月30日(月) 13:20-14:50 15:00-16:30 16:40-17:25

「赤ちゃん学からみた発達障害」

1. 発生のメカニズムに迫る
2. 地域で育つ発達障害の子どもたち

近年、増加の一途をたどる発達障害ですが、その発生メカニズムや診断についてはまだ明らかになっていません。今回はそうしたことについて、赤ちゃん学の立場から共に考え、さらにこうした子どもたちが地域で生き生きと暮らしていくために、私たちが何をなすべきかについて討論したいと思います。

【汐見 稔幸 講師】 7月31日(火) 時間調整中

【大日向 雅美 講師】 9月29日(土) 時間調整中

後学期開講科目 シラバス

コミュニティ保育資源の活用 2単位 火曜日(隔週) 18:20~21:30

(開講日時は開講予定参照)

担当: 多田 千尋 (「東京おもちゃ美術館」館長)

主題と目標

地域との連携と協同が今や不可欠の保育及び幼児教育、子育て支援の中で、コミュニティの中に人的資源や文化資源を見出し、計画・連携の実行を図れるよう知識を身に付け見聞を広げる。また、現場検証を重視しつつその方法を探り、コミュニティ保育資源の可能性を具体的に探り、地域コミュニティを精査できる力を育むことを目標とする。

受講条件・その注意

特になし

授業の形態

講義 討論 講読 実験 実習 実技 発表 演習

教科書・参考図書

「遊びが育てる世代間交流」(黎明書房)

評価方法・評価割合

小論文(レポート)(割合:40%) 出席(割合:60%)

授業計画

地域との連携と協同が今や不可欠の保育及び幼児教育、子育て支援の中で、コミュニティの中に人的資源や文化資源を見出し、計画・連携の実行をするうえで、その方法を探り、文化構想を展開する道標を検証する。

また、2008年4月に廃校となった元小学校に、地域住民とNPOとの文化協働で創設された東京おもちゃ美術館及び赤ちゃん木育ひろばなどの現場検証も十分に実施し、できる限り

学外に出向きミュージアムや子育て支援施設の持つ保育資源の可能性も考察する。

- (1) 保育施設が地域と繋がりあう文化協働とは何か
- (2) 地域で保育資源を紡ぐ、保育資源を創る
- (3) 地域とのファシリテーター、インタプリターとしての保育者の可能性
- (4) 老若男女共同参画から見た子育て支援施設の可能性
- (5) 東京おもちゃ美術館が創る「多世代交流」「幼老統合ケア」

【現場視察及び検証候補】

東京おもちゃ美術館、赤ちゃん木育ひろば、いずみナーサリー

【開講予定】

10月9日(火)	18:20~21:30(2コマ連続授業)	お茶の水女子大学にて
11月6日(火)	18:20~21:30(2コマ連続授業)	東京おもちゃ美術館にて
11月20日(火)	18:20~21:30(2コマ連続授業)	東京おもちゃ美術館にて
11月27日(火)	18:20~21:30(2コマ連続授業)	お茶の水女子大学にて
12月11日(火)	18:20~21:30(2コマ連続授業)	東京おもちゃ美術館にて
12月23日(日・祝日)	10:00~12:00、13:00~15:30(3コマ分)	見学 東京おもちゃ美術館にて
1月15日(火)	18:20~21:30(2コマ連続授業)	お茶の水女子大学にて

学生へのメッセージ

クオリティの高い学びは現場にこそあり、多くの専門家との交流の中で育まれます。こうした視点を重視した授業を多角的に、多面的に展開します。

乳幼児発達障害論

2単位 水曜日 18:20~19:50

担当: 榊原 洋一 (お茶の水女子大学大学院 教授)

主題と目標

受講条件・その注意

授業の形態

評価方法・評価割合

授業計画

現代保育課題研究

1単位 木曜日(隔週) 18:20~19:50

担当:

主題と目標

受講条件・その注意

授業の形態

評価方法・評価割合

授業計画

子ども理解と保育の探求	2 単位 金曜日 18:20~19:50
担当:	
主題と目標 受講条件・その注意 授業の形態 評価方法・評価割合 授業計画	

乳幼児保育マネージメント	2 単位 集中講義
担当:	
主題と目標 受講条件・その注意 授業の形態 評価方法・評価割合 授業計画	

比較保育実践研究	1 単位 集中講義 (開講日時は授業計画参照) 担当: 星 三和子 (名古屋芸術大学大学院 教授)
主題と目標 受講条件・その注意 授業の形態 評価方法・評価割合 授業計画	
1 月 12 日(土) 13:10-14:40, 14:50-16:20, 16:30-17:15 (2.5 コマ)	
1 月 13 日(日) 13:10-14:40, 14:50-16:20 (2 コマ)	
1 月 26 日(土) 10:40-12:10, 13:10-14:40, 14:50-16:20 (3 コマ)	